

「鎌倉市図書館振興基金」購入第5号提案

1 提案資料

- (1) 資料名：『江之寫鎌倉紀行』（題箋：江の島鎌倉紀行）
- (2) 資料：写本1冊、帙入り
- (3) 作者：不記載
- (4) サイズ：19.8×12.3cm
- (5) 丁数：10丁
- (6) 行数等：各丁11行（最終頁10行）、1行20～30字
- (7) 年代：巻末に「干時 明和六つのとし孟夏」（明和6年=1769年）と記載
- (8) 内容：著者は、文明の頃（1469～1486）の連歌師宗祇の旅になぞらえて鎌倉への旅を実行したようです。なかなかの教養人と思われます。京都聖護院の僧・道興（どうこう）が著した『廻国雑記』には『宗祇廻国記』など宗祇の名を冠した版本があり、江戸時代後期に宗祇著者説が否定されるまでこの著者のように宗祇が著者であると思われてもいたようです。卯月（陰暦4月）望（もち）の日（15日）に出発、武州芝浦（現在の港区芝浦）・六郷・川崎・横浜・戸塚・小栗塚・江の島・腰越満福寺・七里ガ浜・極楽寺・星月の井・御霊の宮・大仏・由井ヶ浜・光明寺・なめり川・青砥左衛門藤綱・鶴岡八幡宮・雪の下・六浦の荘金沢、離山等、歌を詠みながら歩き19日に江戸に帰りついた旅の記録です。
- (8) 程度：文字部分にかかる虫損はありますが裏打ち補修済み
- (9) 書店名：沙羅書房（東京都千代田区神田神保町1-32）
- (10) 目録名：『沙羅書房古書目録 第九八号』令和元年（2019年）6月
- (11) 価格：308,000円（税込み）
内訳…（本体価格）280,000円（消費税10%）28,000円
（資料を見計らいとして借用した時点では消費税が8%ですが、もし購入できるとしたら来年度のため10%としました）
- (12) 旧蔵者…表紙に「乾々齋書屋」の蔵書票が貼付され、表題紙に「藤浪氏蔵」の印があります。調べると、藤浪剛一（フジナミゴウイチ）氏旧蔵と分かりました。藤浪剛一氏は、『コンサイス日本人名事典 改訂新版』（三省堂編集所編 三省堂 1993）によると、
「1880～1942（明治13～昭和17）明治・大正・昭和期の医学者。藤浪鑑（アキラ）の弟。愛知県生まれ。岡山医専（岡山大医学部）。1909（明治42）ヨーロッパに留学。ウイーン大学でレントゲン学を修める。1912帰国後、順天堂病院レントゲン科長となり、草創期の日本レントゲン学界に尽くした。1920（大正9）慶大医学部教授となり、理学的診療科を主宰。日本レントゲン学会・日本医史学会・日本温泉気候学会などの創立に参加した。」
「乾々齋書屋」については、雑誌「薬学図書館」42巻1号（1997）に資料館紹介として「武田科学振興財団」・杏雨書屋（齋藤幸男）があり、それによると、「乾々齋」は「けんけんさい」と読むこと。藤浪剛一博士の旧蔵コレクションで、日本医学史関係書としては最大の収書」とのことです。

2 提案理由

- (1) 『国書総目録』（岩波書店 1989）に掲載されておらず、写本であることから現存唯一の資料である可能性が高いと思われることです。
- (2) 巻末の「明和六つのとし」（1769年）の記載が正しければ、本資料が江戸中期の鎌倉への遊山旅の様子等を知ることができる貴重な資料であると思われることです。
- (3) 虫損のため判読し辛い部分も何箇所かありますが、本紙が既に裏打ち補修されているため、欠損部分もある程度類推が可能であり、内容の貴重さを損ねるものではないと思われることです。